

Title	恋愛について
Author(s)	田中, 俊英
Citation	臨床哲学のメチエ. 11 P.34-P.35
Issue Date	2003
Text Version	publisher
URL	<a href="http://hdl.handle.net/11094/5971">http://hdl.handle.net/11094/5971</a>
DOI	
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

# 恋愛について

田中俊英



十月二十日(火)  
担当たなか  
テーマ  
恋愛について

なんとなくおもしろそうだからという僕のいつもの理由で、深く考えもせずこのテーマにしたんですが、いやあ大人相手だと恋愛話は絶対盛り上がるのに、高校生は全然だめでした。他の授業もそうだったかもしれませんが、あまり反応もなく、あの「私語」というやつですか、くすくすぺちゃぺちゃとよくしゃべる、あの姿勢に対してめちゃくちゃ腹が立ったのです。でもよく考えると、はるか昔教育実習に行った際も、今回と同じような反応（授業内容は通常の教科でしたが）なのでした。あのときは僕自身めちゃくちゃ上がっていて、生徒の反応を見る余裕もなかったんですね。でも今回は、わりと授業内容を準備していき、また僕も年齢を重ねたので生徒たちを見る余裕もできたのでしよう。

まあとりあえず内容は、恋愛一般を大ざっぱに語るというよりは、「恋愛の出会い」に絞りました。教材は、有名でべたなビデオを5本（たぶん5本だったと思う）借りていて、「ここ!」という必殺の出会い場面を、各ビデオごとに15分くらい流しました。それで、ディスカッションがちょっとでもできれば、みたいな狙いでした。ビデオはまず「タイタニック」。ディカプリオがヒロインを救う場面です。続いて、キムタクと常盤貴子の「ビューティフル・ライフ」。美容師のキムタクが車椅子を利用する常盤と出会い、髪をカットする場面。以上の2つは「ひとめぼれ」系ですね。続いて「失楽園」。中年の男女が不倫旅行に行く際、ドキドキしながら手を握る場面。これは「不倫」系です。

流れははっきり覚えてないのですが、確かここで休憩を挟み後半に突入しました。生徒たちは目を輝かせて見ている人もいたのですが、半分はお昼寝モード、半分は私語モードでした。主催者の方には申し訳なかったのですが、前夜一晩かけてすべてのビデオを見て「これは名シーンだから絶対盛り上がるはずだ」と自信を持って挑んだ反動からか、このあたりから僕は何となくやる気がなくなっていました。内心、「どうせディスカッションも盛り上がらないだし、適当にビデオを引き延ばして終わろうかな」みたいな感じでした。

残りのビデオは、メグ・ライアの「ユーガットメール」。「メール出会い」系も入れたかったです。そして最後は中山美穂の「ラブレター」。これは中山美穂の回想シーン（酒井美紀が演じる中学時代）に焦点を当てました。つまり「学園」系ですね。このように多種多様な教材にもかかわらず（自分で言ってるだけですが）、ディスカッションも予想通りいまいち盛り上がりませんでした。まあ僕の手抜きが伝染したのかもかもしれませんが、あとから三浦さんや高橋さんに聞くと「どの授業もあんなもんですよ」とのこと。

ということは、他の講師のみなさんも、お昼寝モードや私語モードに耐えたんでしょうか。最近は大人数相手の真面目な勉強会とか講演会しか体験してなくて、10代相手の「私語にもめげず我慢して教育するぞ」的環境は、脆弱な僕には厳しすぎます。世の先生たちはすごい、と生まれて初めて教師のみなさんを尊敬したりもしました。

でも。出席者全員から返ってきたアンケートを見ると、お昼寝していたはずの子がちゃんと見ていたりするんですね。私語していたはずの子もわりと皮肉めいたかっこいいことを書いていたり（全体的に、「タイタニック」が好評で、「失樂園」が最低評価でした。「失樂園」は「キモイ」らしい。じゃあ僕みたいなおっさんの恋は「キモイ」んだろうか。あと、キムタクがそれほど評価されていなかったのは、キムタクの支持層がすでに20代後半に移動しているからなのかも）。

まあつまり、僕は「教育的態度」でもって生徒たちを暖かく包容できなかったということ。僕は日頃、10代の青年相手に1対1で悩みを聞いたりしゃべる仕事をしていますが、ふだんの仕事のほうがはるかに楽だと思いました。いやあ、教壇で教えるのはしんどいわ。

「教室」もなんだか狭くて暗くて、以前「不登校と倫理」というテーマで「学校という建物そのものが子どもを変化させる」みたいな話し合いをしたことがあって、それを思い出しました。

10代は、ただでさえ恋愛みたいな「恥ずかしい」テーマを友達以外にしゃべるのは苦手なのに、それも教室で、しかも友達でない人の前でしゃべられるのは結構苦痛だったのかな、なんていう反省もしました。

教室では、恋愛みたいな身近でナイーブな問題よりは、もっと自分の体験から距離をとって考えることのできるテーマのほうが適しているのかも。まあそれも伝える人の力量次第でしょうが。

思い出すまま書いてみました。

（たなかとしひで）